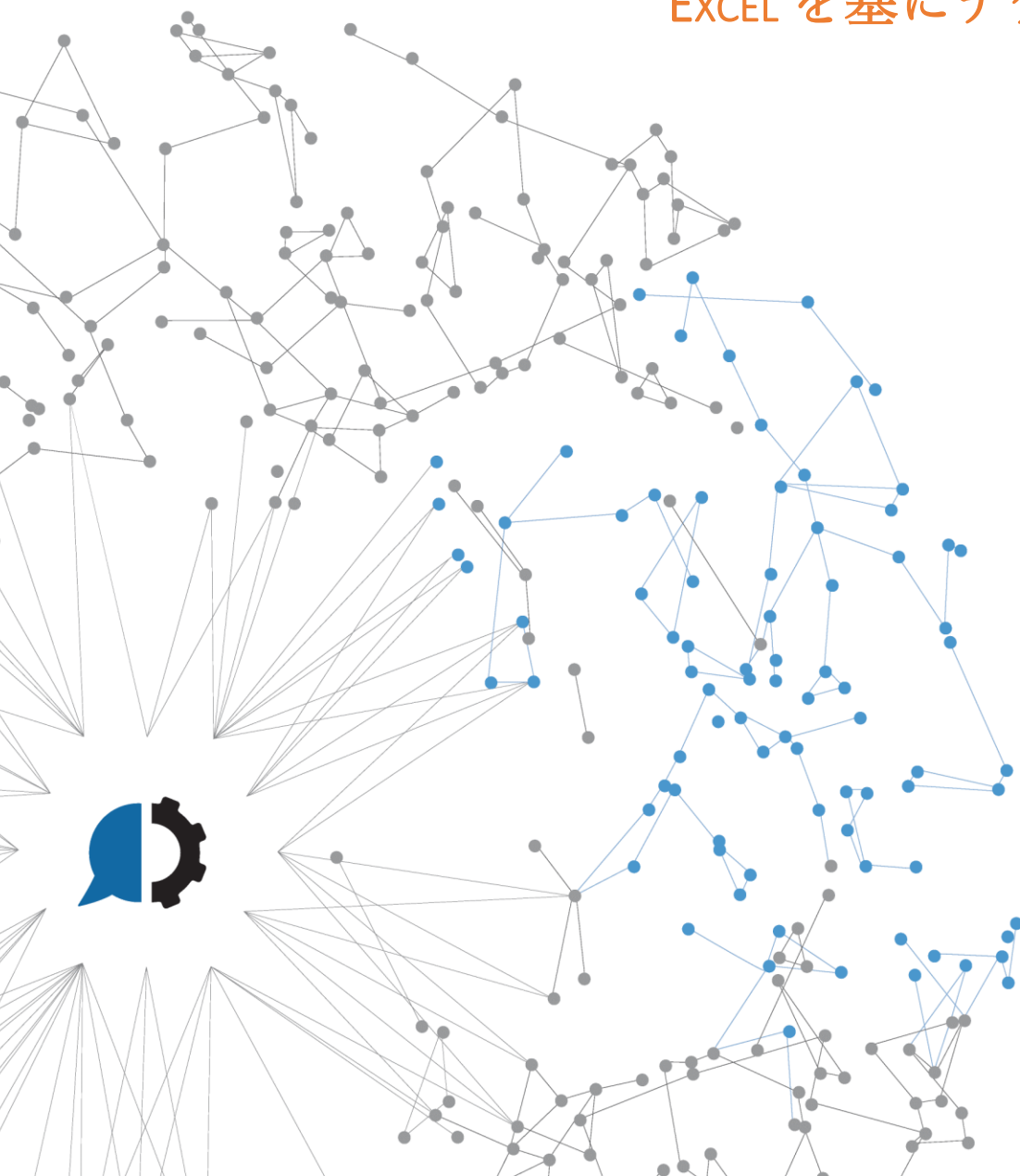




# HUBSPOT BOT

EXCEL を基にチケットを作成





## 内容

概要 .....	3
前提条件 .....	4
AUTOMATE タスクをインポートする方法 .....	6
INPUT ファイルの生成方法 .....	7
HUBSPOT - EXCEL を基にチケットを作成 を実行する方法 .....	8
付録 A – HUBSPOT チケットビュー と EXCEL 結果例 .....	10



## 概要

この How to ガイドでは、「*HubSpot - Excel を基にチケットを作成*」をご紹介します。繰り返しの多い手作業に貴重な時間とリソースを費やす代わりに、AutoMate に任せて、ロボットによるプロセスオートメーションで IT とビジネスプロセスを合理化しましょう。AutoMate は手作業を代行することで、繰り返し作業を大幅に削減し、作業の品質と一貫性を向上させることができます。自動化されている主なプロセスは、レポート作成、ファイル移動、データのインポートとエクスポート、バッチ処理のスケジューリングです。

***HubSpot - Excel を基にチケットを作成***は、HubSpot REST API、特に ***Tickets API*** をベースにしています。HubSpot でチケットを作成し、その実行結果で Input Excel ファイルを更新します。詳細については、「[前提条件](#)」と「[INPUT ファイルの生成方法](#)」のセクションをよく確認してください。

また、[HubSpot - 接続トークンの生成](#)を使えば、このボットを動作させるためのトークンを簡単に作成することができます。トークンはデフォルトで6時間ごとに失効します。

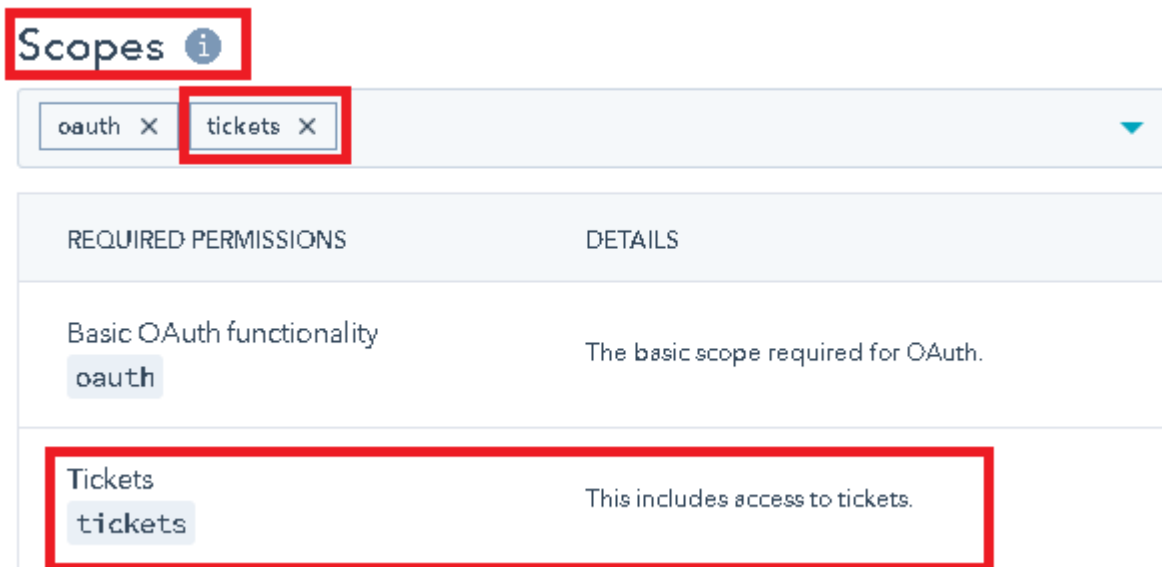


## 前提条件

- **AutoMate:** Hubspot Bot が動作するためには、AutoMate ソフトウェアが必要です。最低限サポートされているバージョンは以下の通りです。
  - [AutoMate Ultimate 11.2](#)
  - [AutoMate Plus 11.2](#)
  - [AutoMate Desktop 11.2](#)
- **AutoMate Markup Language ファイル (.AML):** Hubspot Bot タスクのステップを含む、AutoMate で使用される主要なファイルタイプです。
- **HubSpot:** 必要となる最小要件は、以下の通りです。
  - [HubSpot REST API を有効にする:](#) デフォルトで有効になっています。
  - [HubSpot REST API – 接続されたアプリの作成と OAuth の有効化およびトークンの生成:](#) HubSpot のドキュメントで、接続アプリケーションの作成方法についてはこの [リンク](#) で、OAuth の設定方法についてはこの [リンク](#) で確認することができます。この手順では、このボットの動作に必要な接続トークンを取得することができます。なお、トークンはデフォルトで6時間ごとに有効期限が切れるようになっています。



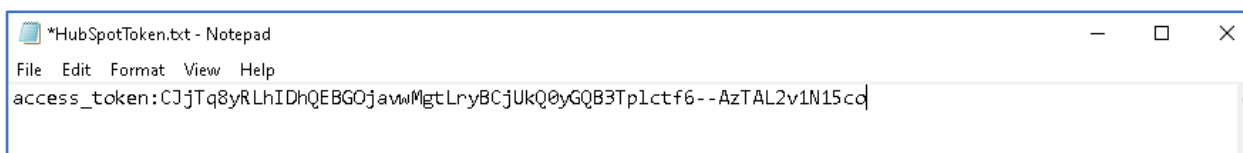
- **HubSpot 接続アプリケーションのチケットスコープ**: 接続アプリケーションの設定時に、必要なスコープが選択されていることが重要です。これにより、この AutoMate HubSpot Bot から **Tickets API** を実行することが可能になります。



- HubSpot の接続値を設定するために作成する AutoMate 定数:
  - **const\_HubSpotURL**: 接続用の HubSpot URL。例: **`https://api.hubapi.com`**
  - **const\_HubSpotToken**: 接続/リクエストを実行するための HubSpot トークン。トークンの値、またはトークンを含む .txt ファイルがあるパスを設定できます。例:  
`C:\Automate\HubSpotToken.txt`  
.txt ファイルを使用する場合、トークンは次のような形式/構造でなければなりません。

**`access_token:TokenString`**

例:



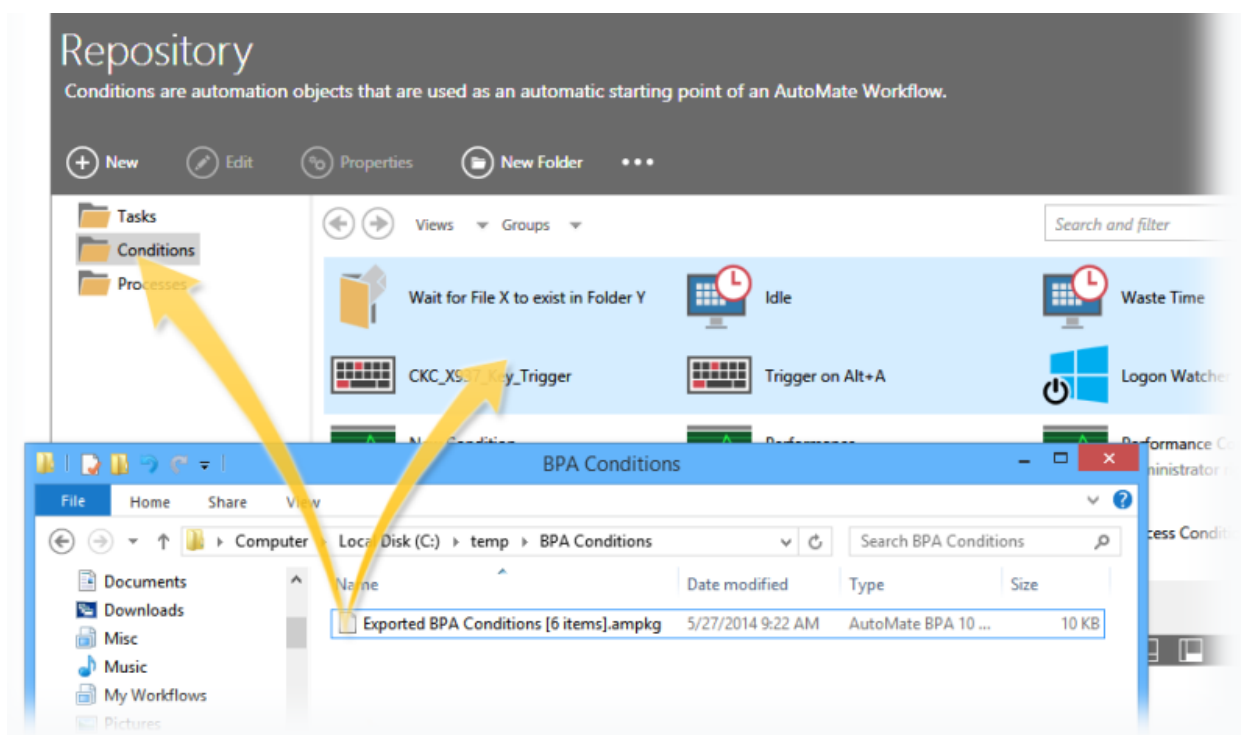


## AUTOMATE タスクをインポートする方法

互換性のあるファイル形式は、ドラッグ&ドロップでリポジトリに取り込むことができます。

サーバー管理コンソール(SMC)から、[リポジトリ]セクションに移動します。

目的のファイルを元の場所からドラッグして、SMC 内のフォルダにドロップします。ファイルは、フォルダーアイコンまたはメインパネルにドロップすることができます（下図参照）。インポートされたオブジェクトは、自動的に対応するリポジトリの場所に配置されます。





## INPUT ファイルの生成方法

この HubSpot ボットに同梱されている入力ファイル「**HubSpot Create Tickets INPUT.xlsx**」は、トランザクションの全項目を自動的に入力するための一覧表を提供します。

### HubSpot のチケット作成画面:

The screenshot shows the 'Create ticket' form in HubSpot. The form has a teal header with the title 'Create ticket' and a close button. Below the header, there are several input fields: 'Ticket name \*' (text input), 'Pipeline \*' (dropdown menu showing 'Support Pipeline'), 'Ticket status \*' (dropdown menu showing 'New'), 'Ticket description' (text input), 'Source' (dropdown menu), 'Ticket owner' (dropdown menu), 'Priority' (dropdown menu), 'Create date' (calendar icon and text input showing 'MM/DD/YYYY'), and 'Category' (text input).

### Excel INPUT ファイル

	B	C	D	E	F	G	H	I
1	HubSpot - Ticket Fields					Created?		Result Details
2	Description	Pipeline ID (Example: 0 = Support Pipeline)	Ticket status (Pipeline Stage) (id that corresponds to what you have set in HubSpot. Example: 1 = New)	Priority Possible values: LOW, MEDIUM, HIGH	Source Possible Values: CHAT, EMAIL, FORM and PHONE	Yes/No	Date	Ticket ID / Result Message

注:

- **Red fields 赤色の項目**は必須項目です。
- 必須でないフィールドの1つが定義されていない場合、チケットはあなたの環境のデフォルト値で作成されるか、ブランクとして作成されます。
- INPUT ファイルの G 列から I 列には、実行結果とオープンしたチケット ID が記入されます。実行結果の例については[付録 A](#)を参照してください。

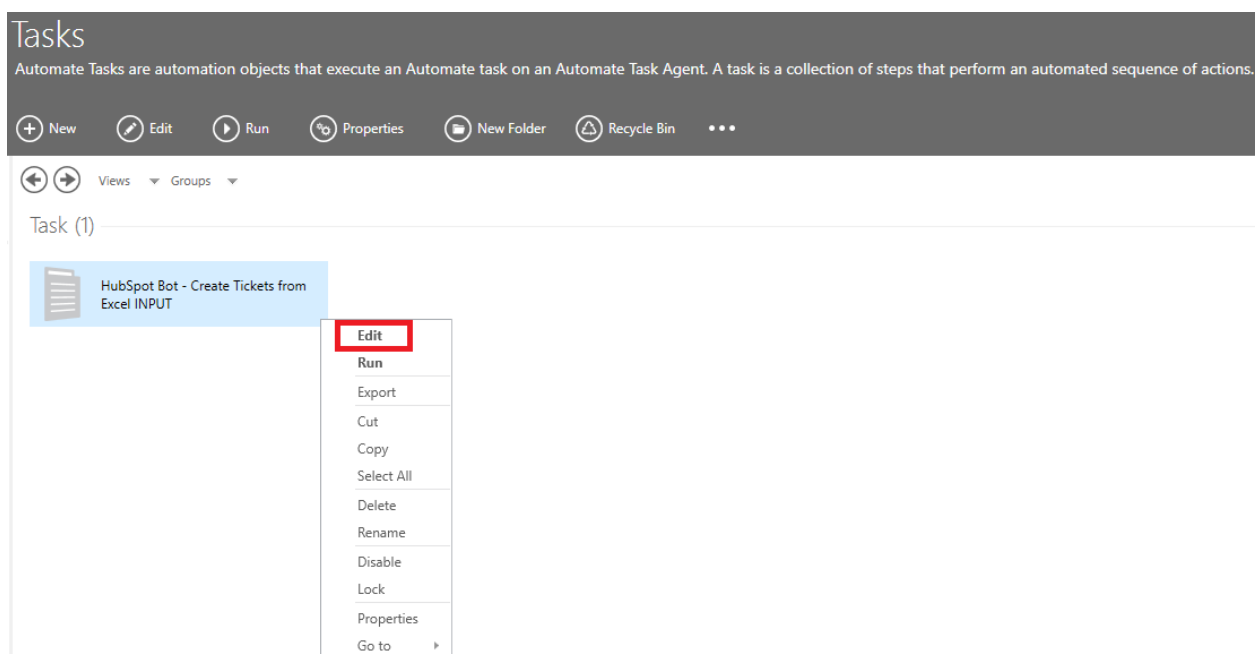


## HUBSPOT - EXCEL を基にチケットを作成 を実行する方法

このタスクを初めて実行する場合、いくつかのパラメータを設定する必要があります。

サーバー管理コンソールを開き、インポートしたタスクを探します。

インポートしたタスクを右クリックし、編集を選択して編集します。



ステップ 4 からは、希望する出力に応じて次の変数を編集してください。

- **var\_ExcelInputFile**: HubSpot Create Tickets INPUT.xlsx の完全なパスとファイル名

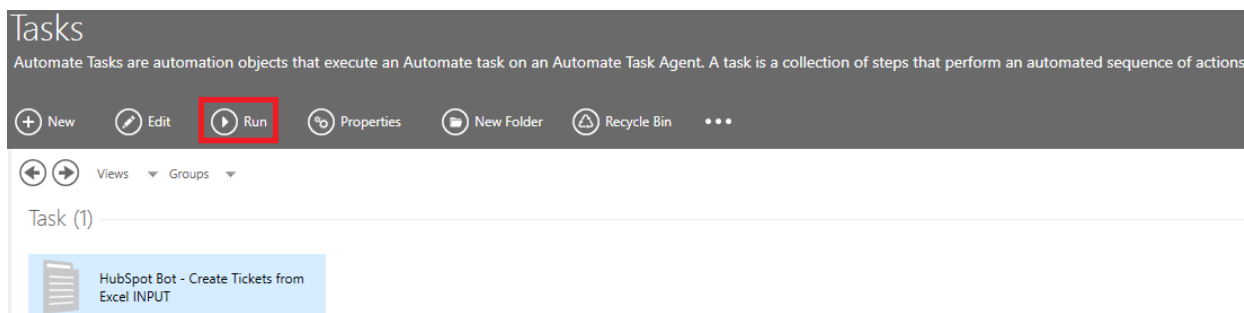
例: **"C:\Automate\HubSpot Create Tickets INPUT.xlsx"**

タスクを保存して閉じます。

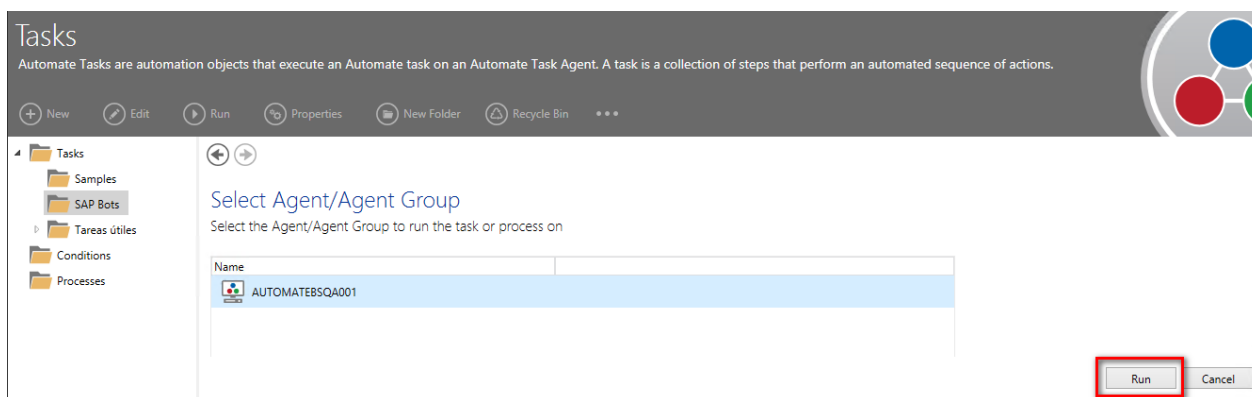




タスクを選択し実行をクリックします。



Agent を選択し、再度「実行」をクリックします。





## 付録 A – HUBSPOT チケットビュー と EXCEL 結果例

結果が記載された INPUT Excel ファイル:

A	B	C	D	E	F	G	H	I
HubSpot - Ticket Fields						Created?	Result Details	
Ticket Name (Subject)	Description	Pipeline ID (Example: 0 = Support Pipeline)	Ticket status (Pipeline Stage) (Id that corresponds to what you have set in HubSpot. Example: 1 = New)	Priority Possible values: LOW, MEDIUM, HIGH	Source Possible Values: CHAT, EMAIL, FORM and PHONE	Yes/No	Date	Ticket ID / Result Message
Automate Test1	This is a ticket created by AutoMate	0	1	LOW	FORM	YES	26/03/2020 5:07:46 PM	109739402
Automate Test2	This is a ticket created by AutoMate	0	1	MEDIUM	FORM	YES	26/03/2020 5:07:47 PM	109739403
Automate Test3	This is a ticket created by AutoMate	0	1	HIGH	FORM	YES	26/03/2020 5:07:49 PM	109731795

実行結果は G 列から I 列に書き込まれることに注意してください。I 列には、HubSpot でチケットが作成されたチケット ID が書き込まれます。

HubSpot チケットビュー結果:

Tickets

Table

Board

Search for a ticket

🔍

Actions ▾

Import

Create ticket

All tickets

My open tickets

Unassigned tickets

All saved filters >

Pipeline

Support Pipeline

<input type="checkbox"/>	TICKET NAME ▴ ▾	TICKET ID ▴ ▾	TICKET STATUS
<input type="checkbox"/>	Automate Test1	109739402	New
<input type="checkbox"/>	Automate Test2	109739403	New
<input type="checkbox"/>	Automate Test3	109731795	New

<

Prev

1

Next

>

25 per page ▾



## 付録B—トラブルシューティング

- ログ: ボットの各反復は、トラブルシューティングのためにログファイルを作成します。ログファイルは、C:\Automate\Tasks\<<TASK NAME>>の下にあります。デフォルトでは、タスク名は「*HubSpot Bot - Create Tickets from Excel INPUT*」です。



### About HelpSystems

Organizations around the world rely on HelpSystems to make IT lives easier and keep business running smoothly. Our software and services monitor and Automate processes, encrypt and secure data, and provide easy access to the information people